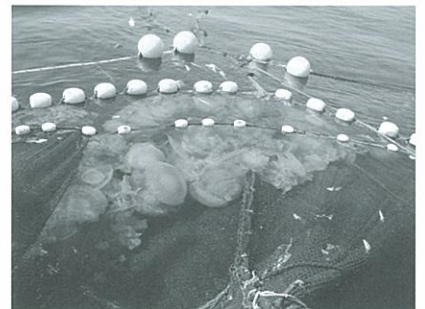




大型クラゲ状況



- 6月29日（朝日新聞）：中国沖、昨年の200倍を観測（6月20日～6月24日調査）
大被害を受けた07年と比べて約2.8倍
被害最大05年と同規模予想
- 7月3日（新聞各社）：長崎県・対馬の浅茅湾の定置網で確認（6月30日）
クラゲはかさの直径15～30cmで、200個体
2005年度の大量発生の時と出現状況が類似
- 7月10日（読売新聞）：7月に入り、発見情報相次ぐ
6月、東シナ海中央海域や韓国・済州島近海で調査船が確認
7月4日前後から、津島近海で小ぶりのものが相次いで確認
7月8日時点で、黄海付近で高密度の後続集団を確認
- 7月17日（みなと新聞）：山口県日本海側の長門市川尻岬を基点に周辺で調査船が24個体を確認
（7月14日）例年であれば8月上旬に初確認となるが、今年度は一ヶ月程度早い
現在、対馬周辺海域に大量来遊している
- 7月21日、23日：九州北方海域で400個体を採集（水研センター14日発表）
（水産経済）移動予測（水研センター）
[対馬周辺海域] 6月下旬に対馬海峡西水道に出現したクラゲは、その後も引き続き対馬近傍海域に流入してきている。今後、西水道から日本海に流入し、韓国東岸を北上後、沖合域を中心に分布を東方に広げる。7月下旬には隠岐諸島周辺に達し、8月上旬には分布の先端部が若狭湾周辺に達する
- [東シナ海] 東シナ海東部から済州島周辺海域で広範囲に出現されているが、7月中下旬には対馬海峡東水道へ流入、九州沿岸域へ出現
今後、対馬海峡東水道（南側）からの流入が増加するおそれあり
- 7月31日（水産経済）：水研センター7月29日発表
8月中旬には、分布先端が佐渡島周辺に達する可能性がある
※当初、被害の大きかった年並の来遊予測が発表されたが、来遊量について不確かな状況
「東シナ海での出現数が過去最大規模」とされるが、「現在、東シナ海での滞留が長引いている」
「日本海に大量襲来した年は対馬東水道からの流入であったが今期、現段階では東水道への流入はあまりない」
「西水道からの来遊も考えられる」とし、警戒態勢を要する
- （みなと新聞）：対馬海峡西水道から流入した大部分は韓国東岸を北上後、沖合域を中心に東方に分布を拡大。7月11日、対馬周辺海域で3,000個体を確認後、14日に山口県沖27日隠岐周辺で確認
- 8月17日（水産経済）：8月10日兵庫・福井の定置網で入網を確認。（各1個体）11日佐渡で確認、山陰から若狭湾は、本格的出現になりつつある



他県で定置網に入網した大型クラゲ

（写真提供：独立行政法人水産総合研究センター）